

高松塚・キトラ古墳壁画から分離した微生物株の 公的機関への寄託について

古墳壁画保存対策プロジェクトチーム

生物・環境調査班

● 菌株寄託の趣意

高松塚古墳壁画，キトラ古墳壁画及びその周辺環境において，微生物による劣化の原因解明の調査のために過去十数年にわたり，微生物を分離培養，維持管理を継続しており，その数は千株を超えている。これらの微生物株は，壁画の劣化原因調査を行うため，樹脂の資化性や薬剤抵抗性や有機酸の生成などをはじめ，分類学的な解析まで種々の研究が行われ，これまでの検討会で報告してきた。これらの分離された微生物株については，今後の微生物による文化財の劣化の研究を進めていく上でも，また，稀有な場所から分離された貴重な微生物資源としても，極めて重要であるため，後世に菌株を残し，恒久的に保存・活用されることが望ましい。そのため，高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画から分離された菌株の中でも特に学術的に重要と考えられるカビ・酵母・バクテリアをおよそ 800 株弱選抜し，微生物系統保存事業を行う公的機関（理化学研究所バイオリソースセンター）へ寄託することとし，現在寄託の準備を進めている。

寄託後は，これらの微生物株は，広く一般に公開され，学術利用を目的として，非営利機関によって研究や教育活動等の利用に供されることとなる。

● 今後の予定

今年度末から来年度にかけて，以下の内容で進める予定である。

- ・一括寄託の生物遺伝資源寄託同意書の取り交わし
- ・高松塚古墳壁画からの菌株（321 株）の発送
- ・キトラからの菌株（414 株）の発送
- ・公開用のデータ整理
- ・一括寄託菌株の公開開始・報道発表等